

ワークショップ

適応策につながる 気候変動予測情報の創出と共有

国立環境研究所

気候変動適応センター

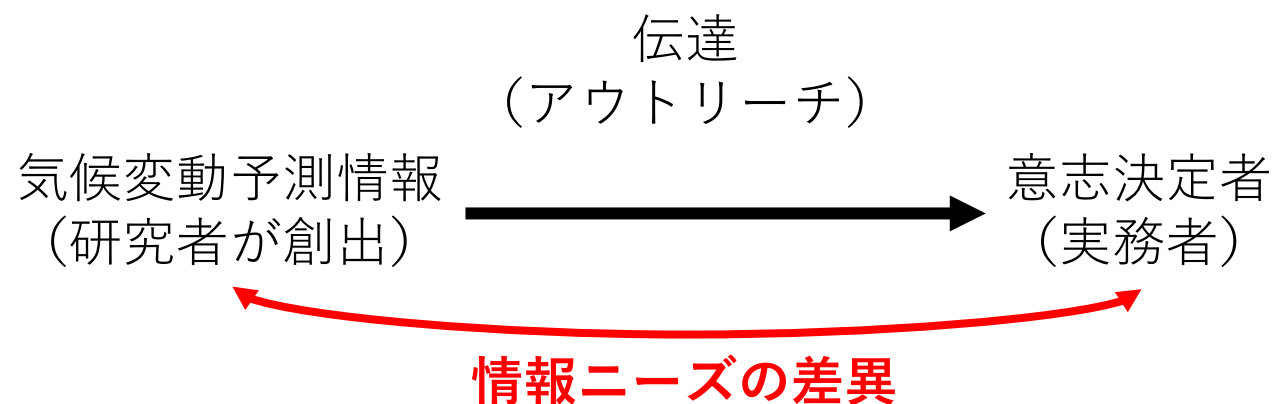
適応策推進のための気候変動予測・影響評価に係る
連携ワーキンググループ

背景

- 2015年のパリ合意→気候変動対策が国内外で活発に
→当事者の数や関連活動が爆発的に増加
- 気候変動関連の情報ニーズ：一般的・全体的なものから当事者が緩和や適応に関する活動を行うための具体的・詳細なものへと変化
- 2018年には気候変動適応法が施行され、政府や地方公共団体が地域に根差した具体的な適応策を練るよう

背景（続き）

これまで



気候変動の理解を
深めるための情報

個別具体的な適応策
検討のための情報

新しい動き

民間事業者による気候変動
リスク情報の創出と提供

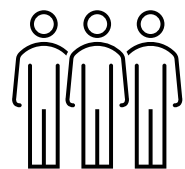
予測に不確実性があることの受容
(問題の核心の共有)

目的

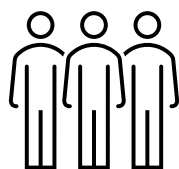
- 気候予測と影響評価の研究者と適応策の実施担当者の関係はどう変わり、それぞれ何をすべきなのか？
- 効果的な適応策の実現に向けた強力なアクターとなった民間事業者や、気候変動の認知や合意形成に深く関わってきたNGOやメディアと今後どう共創・協働していくべきなのか

ワーキンググループ (WG)の活動

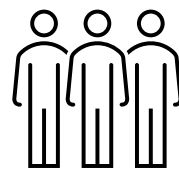
- 適応策推進のための気候変動予測・影響評価に係る連携ワーキンググループ
- 国立環境研究所気候変動適応センターに設置
- 活動期間は2021-2022年度。座長は高薮、幹事2名、委員19名。
- 委員は気候予測情報の創出に係る6つの「主体」より3名ずつ募る。



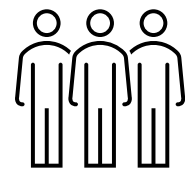
気候予測



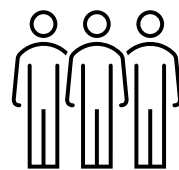
影響予測



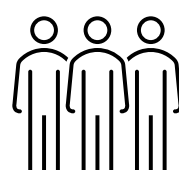
情報仲介（公的機関）



情報仲介（事業者）



地方公共団体



俯瞰
（メディア、NPO等）

WGの活動報告：「期待」と「自覚」

なぜ「情報伝達」がうまくいかないか？ 「期待」と「自覚」の調査

期待：他の「主体」に期待していること

自覚：他の「主体」が自分に期待していると思うこと

主体	まとめ
気候予測	精緻なデータの提供と意見交換が求められていると自覚しているが、データのオープン化や（文章化された）ノウハウのアクセスが期待されている。
影響予測	予測の高度化が求められていると自覚しているが、データのオープン化や政策での利用シーンを想定したデータの提供が期待されている。
情報仲介（公的機関）	データや情報の分かりやすく使いやすい開示が求められている、というところで期待と自覚は一致している。ただし、実現には予測に関するユーザーの要望の集約が必要。
情報仲介（事業者）	社会実装と社会ニーズの集約が求められている、というところで期待と自覚は一致している。「利益の還流」「1年後の正確な予測」などの言葉が気候予測～公的機関の意見からは出てこないの、視点が異なる可能性が高い。
地方公共団体	エンドユーザとしてどんな時にどんな情報が必要なのかを開示することが求められている、というところで期待と自覚は一致している。適応策推進にあたって庁内の部局間の意思疎通や人事異動への対応が随所で指摘されている。
俯瞰	市民参加の実践や記事の作成など、中心的な業務をしっかりとることが求められていると自覚しているが、国内外情勢の俯瞰、サイエンスコミュニケーション、社会的なムーブメントの醸成など、業務を超えた機能が期待されている。

※ 期待と自覚が一致しているところには、情報の創出・共有の課題が書き込まれている

第1部のご講演

- 千葉市との協定・ピンポイント熱中症等（仮題）
安部 大介（株式会社ウェザーニューズ 常務執行役員）
- 気候変動リスクマネジメントと損害保険
福渡 潔（S O M P O リスクマネジメント株式会社 執行役員 サステナビリティ部長）
- 大阪府三大水門事業における気候変動予測の役割
森 信人（京都大学 防災研究所 教授）
- 農業分野における影響・適応策評価と地域スケールの気候変動予測情報
西森 基貴（農業・食品産業技術総合研究機構 農業環境研究部門 気候変動適応策研究領域 主席研究員）
- 自治体での適応の実情（仮題）
真砂 佳史（国立環境研究所 気候変動適応センター 気候変動適応戦略研究室 室長）

第二部の討論

- 10の分科会に分かれて討論。
- 議題1：第1部での話題提供に関する意見交換
 - 関心を持った話題は？
 - それは、気候変動関連業務の役に立ちそうか？
- 議題2：気候変動情報の伝達・創出・共有に関するボトルネック
 - 気候変動情報の伝達・創出・共有で改善すべきことは何か？
 - そのために、自分はどうするか？他者とどう協働するか？「期待」と「自覚」のずれはないか？

第三部の総合討論

- 分科会ごとに討論のまとめを披露
- その後、総合討論

少し長い会合になってしまい恐縮ですが、
温暖化予測を社会で活用してゆくために力を合わせていくポイント等について
前向きな対話ができれば主催者として嬉しく思います。

本日はよろしくお願いいたします。